

＜令和7年度秋季大会ミニシンポジウム＞
マナマコの持続的利用に向けた最新研究

日時・場所：令和7年9月24日（水）13：00～16：20 第3会場

企画責任者：高木 力（北大院水）・酒井 勇一（函館水試）・鵜沼 辰哉（東北大院農）・
田中 海（東海大北地研）

13:00－ 13:05 開会の挨拶

酒井 勇一（函館水試）

座長：酒井 勇一（函館水試）

13:05－ 13:30 1. ナマコ類の流通と資源保護に関する現状と課題

（ワシントン条約における議論の動向等について） 北村 徹（日本エヌ・ユー・エス（株））

13:30－ 13:55 2. マナマコ種苗放流を通じて見えてきたこと ―寿命・成長・分散と経済効果―

酒井 勇一（函館水試）

13:55－ 14:20 3. マナマコの行動特性： 漁港内での移動計測からの示唆

田中 優斗（北大院環境）

14:20－ 14:30 休憩

座長：高木 力（北大院水）

14:30－ 14:55 4. 夏眠に伴うマナマコの腸の形態、

組織および機能的変化と夏眠開始サイズについて

田中 海（東海大北地研）

14:55－ 15:20 5. マナマコは低栄養な餌で良く育つ

鵜沼辰哉（東北大院農）

15:20－ 15:45 6. Sea cucumber holobiont project and discovery of growth promoting probiotics candidates
Juanwen Yu (Yellow Sea Fisheries Research Institute, China)

15:45－ 16:15 総合討論

16:15－ 16:20 閉会の挨拶

鵜沼辰哉（東北大院農）

企画の趣旨

マナマコは、日本各地の沿岸に広く分布し、古くから食用とされているばかりでなく、我が国の輸出重要品目にもなっている。本種の種苗生産には長い歴史があるものの、放流後の回収率が著しく低く、その生態は不明な点も多い。しかし、近年の調査では、放流場所から長距離を移動していることも報告されており、放流されたマナマコが広範囲に分散している結果も示されている。これに加えて、夏眠や

生殖の理解や高成長をもたらす良質な餌料の開発が進み、かつ成長促進効果を示すプロバイオティクス候補も発見されるなど、マナマコの増養殖や資源管理に寄与する新発見も次々に報告されている。そこで、本シンポジウムでは最新の調査・研究で明らかになった成果をもとに、本種の資源管理方策の在り方について議論する。